

オタクの世界平和

3年2組11番 庫本莉実

1. はじめに

日本の人々が「オタク」と聞いて思い浮かべるのは、オタ芸、アキバ、アイドルといったイメージで少しメガティブなイメージを持つ人が多い。なぜ急にオタクの話をしたのか。それは私自身がオタクであるからだ。オタクということを言うのに昔抵抗があった。それは自分がまわりからガッカリされるかもしれないと思っていたからだ。そこで私は、好きなものを恥ずかしいと思わないといけないのかに疑問を持ち、オタクというマイナスなイメージはどこからきたのかについて探求を行い、そのマイナスなイメージをなくしてみんなが好きなものに対して自信を持てるようになるためにはどうすればいいのかを考えた。

2. 序論

同じゼミの友達やInstagramのフォロワーの中の50人の人たちを対象にアンケートを取り、オタクへのイメージを聞いてみたところ、やはり気持ち悪い、理解できないなどマイナスなイメージを持つ意見があった。だから、オタクということを人に少し恥ずかしくて言えない。と私と同じようにいう人も多い。しかし、1つのことに興味を持っている熱心な人、好きなことがある素敵なお人などポジティブな意見を持つ人もいた。一般的にサッカーファンやカメラ好きなどはあまりオタクという言葉を使わない。好きなものがあるということには変わりはないと私は思う。そこで、私はオタクという言葉そのものに偏見があるのかもしれないと仮説を立て、オタクというものはいつから始まったのかが気になりオタクについての歴史を調べた。

3. 本論

日本のオタク文化というものは今やマンガ、アニメ、映画、ゲームを無視して語ることはできないだろう。いつまでも日本を代表する文化が歌舞伎、富士山、忍者ではないということだ。例として、1990年代の日本のオタク文化を作ったのは、ウルトラマン、セーラームーン、マリオカートなど皆さんも知っているであろう今でも有名なものが多い。

他にも、映画からもオタクに対する時代の変化が分かる。電車男という映画は2000年代大ヒットし、日本にオタク文化を広めた映画である。しかし、この主人公は地味で陰気な格好をしている。この時代はこのような容姿の人たちをオタクといていた。このチェックのシャツにメガネ、リュックなど外見からオタクのイメージが人々に定着した。さらに、2010年代には海月姫という映画が公開された。この映画の主演は朝ドラのじぇいじぇいで有名な能年玲奈さんなどその他の俳優が、くらげオタク、鉄道オタク、女装オタク、日本人形オタクなどたくさんの種類のオタクが出てきてコメディタッチに書かれており、オタクを笑いにして可愛く描かれている。この時代にはもう少しオタクがそこまで悪いものではないと捉えられていると考える。

そして、2020年代にはみなさん知っている人も多いであろう、オタクに恋は難しい、略してオタ恋という映画が公開された。主演はなんと、高畑充希と山崎賢人で、しかもキュンキュンして笑えるラブコメディ映画だ。2020年2月7日より全国304スクリーンで公開され、土日2日間で動員16万9000人、興行収入2億2900万円を稼ぎ出した映画のタイトルにオタクと

という言葉が入っているのにも関わらず、多くの人が映画を見に行っただことがわかる。……①

2000年代



2010年代

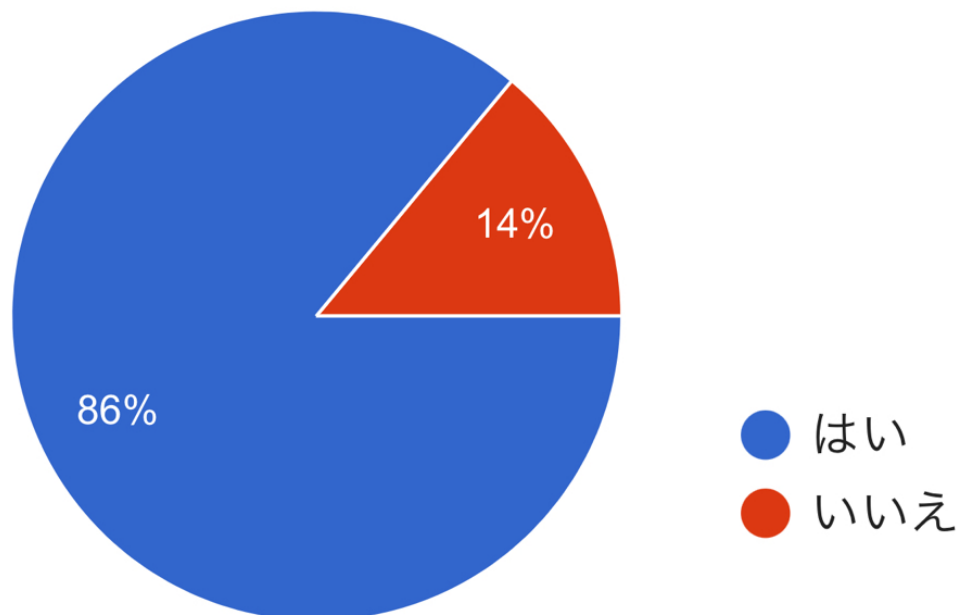


2020年代



この結果から私は今ではオタクが増えたのではないかと考えた。オタクというものには必ず推しているものがあるので、アンケートであなたには推しがいますかと聞いてみたところ、いると答えた人が86パーセントもいて、およそ9割の人がオタクであるということがわかった。

あなたに今推しはいますか



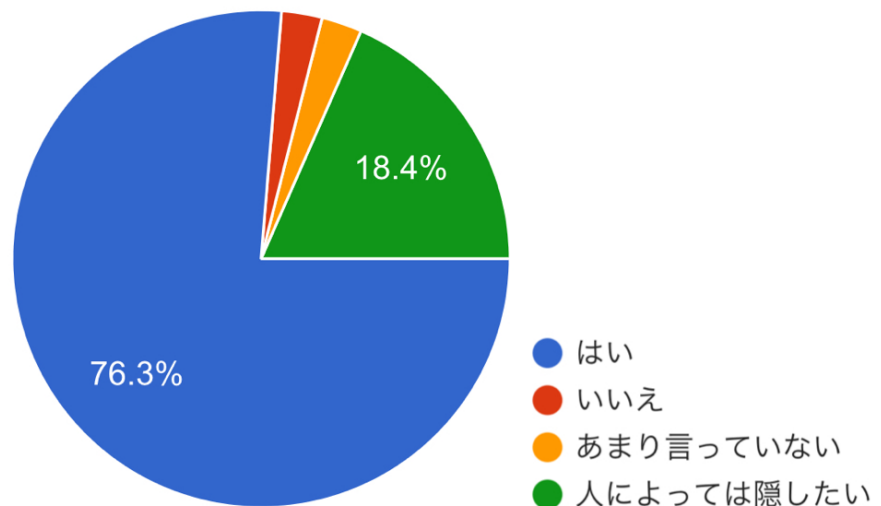
こういったことから現在ではオタクというものが身近なものになり、オタクに対する価値観は、自分とは違う人達という異質な考えから共感へと変わっていったと分かる。

そもそも推しというのはいつ生まれたのか。もともと「推し」という言葉が使われはじめたのは、1980年代のアイドルブームだったといわれている。当時、いわゆる「オタク界限」での「推し」が、現在の一般化した「推し」に変容するきっかけとなったのは、モーニング娘。からAKB48にかけてのアイドル界の変化である。

さらに、「推し」がより世間的に認知された決定打は、2009年から2018年に行われていたAKB選抜総選挙だ。『推す』『推される』という意識はAKB総選挙が社会現象化する前からファンとアイドルの間で構成され、AKB総選挙の4回目からはテレビ中継が入り、視聴率も20%前後を記録するなど、『推し』文化が大衆化するようになってきたと考えられている。……②この結果からも自分の推しが誰かのオタクであることがあるので、オタクが馴染みやすいものになったのかもしれないと分かる。

しかし、私が行ったアンケートの推しがいると答えた人の中で、オタクであることを周りに言っていますか？と聞いてみたところ、4人に1人は隠していると答えた。

オタクなことを周りに言っていますか



その人達は、オタクはキモイと思われそう、ドン引きされそう、ヤバイやつだと思われそうと答えていました。この結果から、やはりまだオタクへの偏見は残っていると考えます。なぜオタクがこんなにも非難されるのか、調べてみるとそれは昭和63年8月、埼玉県入間市の4歳の女の子が行方不明になったのをきっかけに次々と少女を殺害した東京・埼玉連続少女誘拐殺人事件がおおきく関わっているとわかった。その1つの事件の犯人がいわゆるオタク、ロリコン、ホラーマニアとして報道されたことから、同様の趣味を持つ者に対して強い偏見が生じたのだ。その内容は、殺害後の少女をビデオで撮影し、膨大なコレクションのビデオテープの中に隠し持っていたことから、現実と空想・妄想と犯罪行為の境界が曖昧で、明確な規範意識の欠落が犯罪に及んだとされ、こういった人々が「オタク」だと誤解されることとなった。……③偏見を持たれていることがわかるのは他にもある。2008年に出版された広辞苑第六判では、特定の分野・物事にしか関心がなく、その事には異常なほどくわしいが、社会的な常識には欠ける人……④と載っており、また、10年後の2018年に新しくなった第七判でも特定の分野・物事には異常なほど熱中するが、他への関心が薄く世間との付き合い

に疎い人。また広く、特定の趣味に過度にのめりこんでいる人……⑤と載っており、あまり良い意味で載っていない。

そんな中でも、ひとつ偏見が無くなったオタクの種類がある。それは、「ネットオタク」だ。今やネットオタクという言葉は死語となっている。なぜなら、現代の人々みんながネットを使い、ネットオタクとなっているからだ。

インターネット社会の現在では、ネットオタクなど、オタクという差別をするまでもなくみんなが使っているのが死語となり、そうしてみんながオタクになっていったことで差別がなくなり偏見も減ったと考える。

ここで一度海外に目を向けてみよう。Otaku is cool.と言われるくらい、海外では日本のアニソンが日本語で歌われており、マンガやアニメのコスプレをする姿はごく当たり前のことになっている。日本人だけではなく、世界中でオタク文化は親しまれていて、むしろ海外の人はオタクに対してプラスなイメージを持っている。

4. 結論

オタク文化の発祥は日本であり、オタクに対する偏見は日本だけで起きている。どうしてオタクと言うだけで日本ではマイナスなイメージを持たれてしまうのか？

「オタク」がネガティブに受け止められていた昔の時代、「オタク」は自分から言うものではなく、他人から言われる言葉だった。

かつては自分の中にさえあればよかったオタク性を、あえて公表する現在の若者は、個々の世界観に自信を持ちつつも、どこか自分を承認してほしいという欲求を持っているように感じる。現在の若者は昔のオタクのイメージを知らないのがネガティブなイメージからポジティブなイメージへと変わっていったのでは無いかと思う。

5. おわり

オタクへの偏見がなくなってきた今では、「推ししか勝たん」や「オタ活」という言葉が流行っている。それは人は気づかないだけで、みんなオタクであり、偏見がなくなっていると私は考えるからだ。誰しも好きなことやもの、人がいて、それに夢中になることはオタクであるということだ。決して同じものをみんなが好きになる訳では無いので理解されないこともあるが、みんなが認め合い、オタクを知り、それがひとつのコミュニケーションツールとなれば多様性が認め合える世界になるのではないかと考える。

6. 参考文献・出典

①movie marble …興行収入ランキング2022. 02. 2(2022. 06. 21)

②withnews…オタクに偏見ないZ世代、「推し」はコミュニケーションツールへ2021. 06. 04(2022. 09. 16)

③文春オンライン…オタクへの注目、「宮崎勤事件」は昭和と平成の分岐点だった2019. 01. 31(2022. 06. 24)

④岩波書店第六版・広辞苑一御宅④より(2008. 01. 11)

⑤岩波書店第七版・広辞苑一御宅④より(2018. 01. 12)